

幼児の運動能力について —特に捕球運動に着目して—

内田 優芽 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：5歳児，運動遊び，捕球能力

1. 緒言

近年，わが国では幼児の運動能力の低下が大きな社会問題となっている．その要因として，運動する機会の減少が考えられる．文部科学省で平成19年度から21年度に実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」では，幼児の体を動かす機会が減少していると言う結果が見られた．幼児期における運動は，生涯にわたって必要な運動の基礎を獲得する時期であり，特に5歳児は，用具を操作する動きを経験することが大切なので，ボールを使って投げたり，捕ったりする運動経験が必要である．

そこで本研究では，幼児を対象に捕球に関する運動遊びを行い，捕球能力にどのような変化をもたらすのか調査する．

2. 研究方法

調査対象は，滋賀県K市のA幼稚園，B幼稚園の男子38名，女子26名，いずれも5歳児である．

調査方法は，A幼稚園では，1ヶ月間，週1回幼児に運動遊びを行い，1ヶ月後再び捕球に関する運動能力調査を行う．B幼稚園では，A幼稚園と同様の捕球に関する運動能力調査を行う．2園の測定結果を比較し，運動遊びが効果的であったか調査する．

3. 結果と考察

1)A 幼稚園の捕球回数は，運動遊び実施前5.46回で，実施後は7.6回に向上した．特に，10回キャッチする幼児が男女共に増えていた．

2)A 幼稚園とB 幼稚園では，運動指導を行っていたA 幼稚園の捕球回数の方が多い結果が見られた．B 幼稚園は，園独自の運動遊びを行っていたので，捕球回数は，7.07回と比較的に多かったが，定期的に運動指導を行っていなかったため，A 幼稚園の捕球回数の方が多い結果が見られた．

以上の結果より，幼児の運動能力は，運動する機会を十分に設けることで，向上すると考えられる．文部科学省で平成19年度から21年度に実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」においても，運動指導を行った園の方が運動能力は高くなったという結果が得られている．したがって，運動遊びは，運動能力の向上に効果的であると分かった．

4. まとめ

運動遊びを行ったA 幼稚園は，捕球回数の上昇が見られた．運動遊びを行っていないB 幼稚園と比べても，A 幼稚園の捕球回数の方が多い結果が得られた．今回は，1ヶ月間の調査であったが，今後も継続的に運動遊びを行うことで，幼児の体を動かす機会の増加につながるため大切であると考えられる．また，一人ひとりの能力に応じた段階的な指導など，工夫して行う必要があると考える．

引用・参考文献

1)文部科学省(2017) 体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究